

グリーンニュース 第21号

発行年月日 平成15年12月18日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

群馬県環境政策課からのお知らせ

- ・地球温暖化対策と環境教育の推進に関する法律について(2ページ)・・・

主催事業『施設見学会』と『講演会』報告

- ・ペットボトルとトレイ再生工場の見学と國學院大菅井教授の講演(3ページ)・・・

宿泊研修会で話し合われたこと

- ・連絡協議会・地域環境学習講座・環境サポートセンター等々(4～5ページ)・・・

平成15年度版『群馬県環境白書』を読んで

- ・群馬の環境は?アドバイザーの皆様もぜひご一読を(5ページ)・・・

地域環境学習講座事例報告

- ・1)高崎ブロック講演会 2)勢多ブロック粕川村の学習会(6ページ)・・・

マイバッグキャンペーン『店頭啓発』を実施して

- ・富岡ブロック、7団体・総員39名で実施(7ページ)・・・

トピックス・ことばの解説『遺伝子組み換え』

- ・大豆・トウモロコシ・ジャガイモ等の加工品は安全か(7ページ)・・・

群馬県環境サポートセンターだより

- ・図書・ビデオ等のご利用を(8ページ)・・・

専門部会・事業案内

- ・3専門部会、ローテーションで毎月実施(8ページ)・・・

ヨーロッパ環境視察研修参加のお誘い

- ・せっかくの機会です、皆様の目で納得の確認を(8ページ)・・・

今年度の地球温暖化対策について

12月は、地球温暖化防止月間です。毎年、この時期は暖房により電気をはじめとするエネルギー消費量がふえる時期です。この機会に、地球温暖化防止行動を日常生活に定着させるため、「ゆうまちゃんの県民エコDo!」を実施します。昨年度実施したコツコツ宣言は、県に宣言していただき実行するものでしたが、今回は、さらに二酸化炭素削減量まで報告していただくものです。報告いただいた二酸化炭素削減量は、県ホームページ上で公開いたします。

環境アドバイザーの方は、率先して実施していただき、来年度以降の県の地球温暖化対策にも反映させていただきたく、ご意見ご要望をお願いいたします。

なお、詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.gunma.jp/d/01/ondanka/index.htm>



環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に

持続可能な社会の構築と環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進を目的とした上記法律が本年7月25日に公布され、10月1日から一部施行されました。この法律は、環境省・文部科学省・農林水産省・経済産業省・国土交通省の5省が主務大臣となっております。法律の主な内容は以下のとおりです。

- ・ 職場での環境保全に関する知識、技能の向上
- ・ 人材認定等事業の登録
- ・ 人材認定等のための情報提供、マニュアル等の質の向上
- ・ 環境保全の意欲を高めるための拠点機能の整備
- ・ 民間による自然体験等のための土地、建物の提供
- ・ パートナーシップの在り方の周知
- ・ 学校教育、社会教育における環境教育の支援
- ・ 職場での環境教育

法律には、通常事務処理のための施行令、施行規則等がありますが、この法律は、議員立法のため詳細が決まっておりません。来年以降、情報が入りしだい環境アドバイザーの皆様にお知らせします。

なお、参考のホームページをお知らせします。

http://www.env.go.jp/policy/suishin_ho/index.html

リサイクル施設見学会を実施

10月22日リサイクル施設(トレイ及びペットボトル)の見学会が実施されました。当日は雨天にもかかわらず42名の方が参加し、研修しました。

午前中見学した中央化学(株)(埼玉県騎西町)では、回収された使用済みトレイを原料にイスやベンチ等のリサイクル製品を製造しています。

- ・回収されたトレイには、汚れのひどいものや異物が混入しており、これの手作業での除去や物流費等でコストが高くなってしまいます。
- ・使用済みのトレイには油分が滲みしており、そのままトレイの原料としては使用できない。熱分解してスチレンモノマー(トレイの原料)として回収する方法も検討しているが、やはりコストは高くなる。

等の問題を抱えており、リサイクル品を原料にすることは技術的に可能で、リサイクルは実施しているが、通常品に比べてかなり割高になってしまいます。

午後に見学したさいたまペットボトルリサイクル(株)(児玉郡神川町)では、回収されたペットボトルを選別、精製しフレーク化して、再原料として出荷しています。出荷されたフレークは東洋紡、ユニチカ等でポリエステル繊維等の原料に使用されている。(ペットボトルの原料には使用されていない。)

- ・ペットボトルの精製工程(粉碎からフレーク化まで)は自動化されていたが、異物(異種プラスチック、空き缶、ビンなど)を除去するのは人力であり大変な労力を要している(コスト高になる)。回収時の分別がいかんにか大切に改めて認識させられました。
- ・ペットボトルの処理能力は充分にあり、回収量の増加を希望していた。今回の見学会には大勢の希望者があったが、バスの定員から制限させてもらいました。

(新井靖衛 記)



講演会の報告

11月8日(土)国立赤城青年の家・宿泊研修会の際に行われた講演会の内容を報告致します。

テーマ 資源の大量消費と公害 ～つくったものすべてが「ごみ」になる～

講師 菅井 益郎氏 國學院大學経済学部教授

鉍毒問題をテーマに研究されている菅井教授による講演会が宿泊研修1日目の午後に開かれ、37名のアドバイザーが熱心に聴講し、活発な質疑応答がなされました。先生は足尾銅山での公害や富山県神通川流域で発生したカドミウム汚染によるイタイイタイ病など地下資源の利用は公害につながる危険性を指摘された。また、エネルギー使用の増大は地下資源の使用を増やすことから、ドイツ、デンマーク、オランダなどで行われている自然エネルギーへの移行の必要性を語られた。

日本の重電メーカーが原子力へ重点をおく事にはやはり疑問を感じる場所である。

興味深い事は、アメリカではNGO、NPOによる環境への取り組みが盛んで州によってはCO2削減のために非常に努力しているところがあるということである。

(六本木眞千子 記)

『宿泊研修会』で話し合われたこと

群馬県「環境白書」を読んで

平成15年度版、群馬県の環境白書が9月に発行されました。

この環境白書には平成14年度における群馬県の環境の状況や実施した諸施策及び平成15年度に予定している諸施策について記載してあります。

環境白書は第1部：環境の世紀の実現に向けて、第2部：群馬の環境、第3部：計画の進行管理の3部から構成されております。

また、同時に第2部の群馬の環境を要約解説した環境白書要約版「ぐんまの環境」も発行されています。

例えば、水源県として重要な位置にある本県の河川や湖沼の汚染度はどうなっているか、要約版では県内各河川や湖沼の平成14年度の測定結果がBOD値で(湖沼はCOD値で)表示されております。環境白書本書には更に、PH値、SS(浮遊物質量)、DO(溶存酸素)、大腸菌群数の測定値が記載されており、私達の身近な河川等の汚れ具合を知ることが出来ます。

また、県内各地の降水量やPH値の通年観測結果も記載されております。この結果によるとPHは4.0～6.4の範囲で、全県の平均では4.5となりかなり酸性度が高く、酸性雨の影響が心配されます。

「群馬の環境はどうなっているのか」基本的なことを知ることで、環境アドバイザーとして、「環境を守るためにどうすればよいのか」を考え、活動に役立てていく為にも、一読を推奨致します。

本「環境白書」は各地の図書館や環境サポートセンターに設置されています。

(山口牧夫 記)

平成15年11月8日(土)と9日(日)の2日間、国立赤城青年の家で行われた宿泊研修会にて、アドバイザー一間で下記のような内容が話し合われましたので報告致します。

A 全般的な話し合い

- 1)アドバイザーの会議・事業はどうしてもウィークデーが多い。そのために勤務、子供のいる人達には参加が難しく、情報が入りにくい。
- 2)その対策として、もっとメールの活用や、アドバイザー専用のホームページを立ち上げてはどうか。問題点として、メールの登録、ホームページの費用負担、新規書き込み・改定等のメンテナンス等がある。
- 3)地区・地域・ブロックの名称・定義をはっきりとさせるとともに、行事に対し、連絡網の整備等活用をもっと図ったらどうか。
- 4)事業等の企画立案の際、参加しやすい形式・テーマ・メニューを充分検討の必要がある。施設見学会・講演会等は参加しやすいのではないかと。
- 5)環境問題の根本的解決・対策のためには、政治との関係が発生する。今後、政治家との付き合いもあってもよいのではないかと。

- 6) 一方、今後の課題として、アドバイザー連絡協議会の発言力・存在感を高めるための工夫も考える必要がある。
- 7) アドバイザーの自主経費として、アドバイザーから会費をとることは、現状では考えにくい。地域でも、また、専門部会でも、最低必要な経費は、地域環境学習講座を実施し、その報酬等を充当して欲しい。
- 8) マイバッグキャンペーンの店頭啓発を実施した体験として、そろそろレジ袋の有料化を連絡協議会として、働きかけてもよいのではないかな。マイバッグキャンペーンの反省会等で提言し、関係者の反応を調べて欲しい。
- 9) ペットボトルのデポジット制をもっと国や県に働きかけてはどうか。
- 10) 安中市に設置された、ペットボトルの戻し機をアドバイザーは一度見ておいてもよいのではないかな。

B 地域環境学習講座について

- 1) 15年度は、24件・107回の講座を行っている。例年度以降、今後の企画等について議論したい。
- 2) 実施形態としては次の通り
講演会50～60% 体験学習10% 見学会10% イベント10%
- 3) 全般的に、人集めに苦労している。
- 4) 講座回数の4回という制限は、除かれないかという意見あり。
- 5) 当講座への参加者対策として、もっと市町村行政との連携を密にするとよいと思う。例えば、地域課題をテーマとして、行政に“後援者”になってもらい、一体となって、会場確保・啓発・人集めの役割を担ってもらおう。環境問題は市町村行政・県民すべて共通の課題であり、連携は可能と思われる。
- 6) 当件は、市であれば、公民館単位でも可能ではないか。身近な場所、身近なテーマで行い、地域住民の意識改革のきっかけになれば大きな意義がある。
- 7) よいサンプルの事例発表会が必要。

C 環境サポートセンター

- 1) ねらいとして、環境問題の活動者の拠点であり、且つ総合窓口としたい。
- 2) 連絡協議会の事務局的作用をもっと強烈に出して欲しい。
- 3) アドバイザーとの連絡・活用等、
- 4) インターネット・コンピューター等活用の拠点にならないか。
- 5) エコムーブ号の活用とサポーターの育成・充実に積極的な役割を。
- 6) 現状では、サポートセンター自体の積極性・リーダーシップという点で、もう一步と感じざるを得ない。



D その他

- 1) 群馬県環境白書について、県からの説明会が欲しい。
- 2) 啓発事業・イベント等、今後、諸々の役割がアドバイザーにあると考えられるので、腕章等の作成を検討する。

(鈴木克彬 記)

環境学習講座報告

《高崎ブロック・第3回 環境学習講座報告》

日時 平成15年11月15日(土)14:00～16:00

場所 高崎市 サンライフ高崎 2階ホール

テーマ 「榛名湖にワカサギを呼び戻したい人たちの戦い」

講師 群馬高専 教授 小島 昭先生



〈講座趣旨〉

小島先生の炭素繊維(カーボン・ファイバー)による水質浄化の研究成果は時折、テレビ等でも放映されているのでご存じの方も居られると思います。今回の講座では炭素繊維のサンプル「カーボン人工藻」等を参加者に配り、手に触れさせながら汚濁した水が清澄していく実験も会場持ち込まれた水槽でされるなど、丁寧な解説を頂きました。

炭素繊維に水中微生物が付着するメカニズム、それを餌に魚介類が群がり産卵・孵化する課程を追求し、アオコ等で汚染の進む各地の池や湖沼でのフィールドワークとその成果の様子、とりわけ榛名湖でのワカサギ増殖の成功までの話はNHKの「プロジェクトX“挑戦者たち”」を連想する興味深いおもしろさがありました。

炭素繊維の作用で水質浄化や水生生物の復元と云う環境へのプラス効果に注目するだけでなく、背反する化学製品である人工物質・炭素繊維で自然環境に新たなマイナスを生じさせない配慮をあわせもつ必要も学びました。

(野村武彦 記)

《第5回テーマ 環境学習会 「毎日の生活の中のごみ減らしとCO2削減対策」》

テーマのねらい 毎日の生活の中で、一人ひとりの努力で可能なごみの減量とCO2削減を考える。

募集の方法

村長名にて役場から村内の議員、行政区長、衛生委員等関係団体役員に案内を発送し、参加を呼びかけた。

学習の概要 環境学習会の次第は次の通り

1. 粕川村のごみの現状実績報告

村内で発生するごみの収集業者 村環境担当課長

2. 意見発表

小学校PTA代表

婦人会代表

あんずクラブ代表

環境アドバイザー代表

3. 質疑・意見交換・・・自治会(行政区)の関係者の意見も多く活発

4. 講評・まとめ・・・環境アドバイザー勢多ブロック代表

学習の成果

1. 後閑村長が開会から閉会まで参加され、学習会も盛り上がった雰囲気で行われた。

2. ごみ回収業者からの実態報告では、課題の多い行政区のごみステーションが実名で報告され、行政区長とのやりとりもあり、終始、熱の入ったものとなった。

3. 新聞・雑誌等のリサイクル問題をはじめ、今後の村の行政施策にも影響を与えるような有意義な意見も多くあった。

改善事項

ごみ回収業者からの現状実態報告では、写真も添えて行われたため、説得力もあり、参加者の認識も大いに高まった。将来の参考としたい。

実施者の意見

宮城村、粕川村とこの2日の学習会は大成功で、この方式を勢多郡の他の町村にも、また今後の県内の環境学習にも導入出来ないか検討したい。

(宮田荘二 記)



マイ・バッグキャンペーンの店頭啓発を実施して

(富岡ブロック)

富岡ブロックでは、昨年と同様、グリーンコンシューマーぐんまネットに加盟しているくらしの会・婦人会などの7団体にご協力を頂いて9月25日に店頭啓発を行った。当日は39名で甘楽町と富岡市のスーパー7店舗で、午後4時から5時までチラシを配って啓発をした。

事前(8月1日)の話し合いの内容は①マイ・バッグを持って買い物をしている人はほとんど見かけない状況なので、まずは自分の会の会員にマイ・バッグキャンペーンに参加してもらえるように努めよう②離れたサービスカウンターまで行かなければ、カードに判を押してもらえない店があるのでレジで押してもらえた方が、この取り組みの参加者が増えると思われるので店に交渉してみたらどうか③レジ袋が有料になればマイ・バッグを持参する人が増えると思う等の意見が出された。

②については環境アドバイザーが各スーパーに店舗啓発のお願いに伺った時に店長さんに交渉した。しかし、趣旨は理解してもらえたが、大型店のためレジの数が多くハンコを用意するのも容易ではないとのことだった。

店頭啓発を実施して、事前の話し合いでも出されたが、多くの買い物客にマイ・バッグを持参してもらうには、レジ袋を有料にするのが近道に思われる。ちなみに生協では富岡店が開店以来、有料になっているが、それが当たり前になっていて、マイ・バッグ持参者が大多数である。(飯井哲子 記)

遺伝子組換え作物の問題点

平成13年4月1日より、食品衛生法に基づく遺伝子組換えの食品の表示が義務付けられました。表示対象となる食品は、大豆、トウモロコシ、ジャガイモの遺伝子組換え作物とその加工品です。豆腐や納豆などは「国産大豆使用」「非遺伝子組換え」「遺伝子組換え大豆は使用していません」このような表示が表面に書かれています。

この表示を見て遺伝子組換えではないものを購入する消費者が増えていますが、遺伝子組換えについて何が問題なのかを考える人はまだまだ少なくないようです。

遺伝子組換え作物の作付け面積が増えるにしたがって、生態系への影響などが深刻な問題になっている中、今度は、大豆やトウモロコシの他に遺伝子組換えの小麦が商業栽培されようとしています。日本はこれらのほとんどをアメリカなどからの輸入に頼っています。

遺伝子組換え技術は、アメリカなどの一部の農業化学企業が、農薬と特許をかけた遺伝子組換え種子をセットで売りこんで自社の利益を追求していたり、遺伝子組換え作物の花粉が飛散し、知らないうちに農作物が遺伝子汚染され、有機農業生産者をおびやかしているのが現状です。

そして今、日本の主食である“お米”が遺伝子組換えされ商業栽培に踏み切れようとしています。「危険性が立証されなければ受け入れる」のではなく「安全性が立証されなければ排除する」という姿勢を今強く求めていく為に、何が問題でどのような現状になっているのかを知る事が大切です。

(六本木眞千子 記)

専門部会は皆さんの勉強の場！

今後の予定は次の通りです。

会場 すべて群馬県昭和庁舎 1階 第11会議室です。

時間 毎回 13:30~15:30

月日

16年1月10日(土) 環境教育部門

「新春セミナー」

江戸開府400年、おもしろ江戸ばなし・江戸の知恵・今の知恵

チューター 県環境アドバイザー連絡協議会 顧問 新井榮一さん

2004年のスタートにふさわしく、楽しい知恵のあるおしゃべりをしましょう。

コーヒー、お茶にお菓子におせんべいをどうぞ。

参加できる方は、部会長の城田まで TEL か FAX 下さい。

027-251-6753 (TEL・FAX)

2月7日 (土) ごみ問題部会

3月6日 (土) 温暖化・エネルギー部会

4月3日 (土) 環境教育部会

5月8日 (土) ごみ問題部会

テーマ・内容等は、おってご案内致しますが、“これは”と思われるものに、奮ってご参加ください。(毎回の出席も可能です)

環境サポートセンターだより

貸し出しも行っておりますので、どうぞお気軽にご利用下さい。

新規購入図書

- * 外来種ハンドブック 日本生態学会
- * 地球環境キーワード事典 地球環境研究会
- * だれでもできるやさしい水のしらべかた 川辺昌子
- * 川虫図鑑 谷田一三
- * 水生昆虫の観察 谷幸三
- * カゲロウのすべて 岡崎博文
- * ひつつきむしの図鑑 丸山健一郎
- * 大和吉野川の自然学 御勢久右衛門



新規購入ビデオ(含寄付)

- * 私たちの宝もの エネルギー環境教育情報センター
- * エネルギーと環境をめぐって~私たちが担う地球の未来~ エネルギー環境教育情報センター
- * 天然ガスってなんだろう? エネルギー環境教育情報センター
- * 天然ガスをおいかけろ エネルギー環境教育情報センター
- * ガイアファイル~映像で見るエネルギーと環境~ エネルギー環境教育情報センター
- * 水の織りなす風景 上毛新聞社

ヨーロッパ環境視察研修再度のご案内

ヨーロッパ環境視察研修の参加申し込み者は、12月10日現在、まだ定員に達していません。連絡協議会作成のオリジナルな企画であり、またデンマーク・スウェーデンも訪問するというユニークな内容です。これからでも間に合います。“百聞は一見に如かず”です。是非、ご参加下さい。お問い合わせは、連絡協議会代表の鈴木(027-288-4297)まで。